

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 総 第 7 号	氏 名	清水 勇吉
審査委員	主 査 内藤 徹 副 査 高橋晋一 副 査 真田信治 副 査 岸江信介		
学位論文題目 テキストマイニングによる日本語コーパス分析に関する研究			
<p>審査結果の要旨</p> <p>本学位請求論文は、査読制の権威ある学術雑誌『日本歯科医療管理学会雑誌』に掲載された主論文、『言語文化研究』『徳島大学国語国文学』および『テキストマイニングによる言語研究』（2014年刊 ひつじ書房）掲載の3編の副論文を主軸にして、新たに執筆された学位請求論文である。</p> <p>本研究で示された、テキストマイニングという分析手法を日本語学の分野に導入するという試みは、主観的になりがちなテキストデータの分析に計量化による客観的視点を取り入れた点で高く評価できる。こうした手法は言語分析において非常に汎用性の高いものであり、学術的な寄与も大きい。日本語学や日本の社会言語学における、特に対人コミュニケーションなどの研究では、これまでおもに使用率などを用いた単純なデータ分析が主流であり、テキストデータや自由回答形式によるアンケートデータは、手作業による集計を通じて行われることが多かった。昨今、日本語学分野ではコーパス言語学が注目されはじめ、言語コーパスを用いた研究にシフトしつつあるが、一方でテキストマイニングを前面に押し出した日本語研究はまだ確立されるには至っておらず研究知見の蓄積は薄い。今回、歯科医師会によるアンケート調査のデータや配慮表現の分析のために集められた大量の自由回答の分析をはじめ、膨大な量のテキストデータの分析など、多方面にわたるデータをテキストマイニングによって解析し、テキストマイニングの日本語学分野への応用の可能性を示した点は独創性・新規性に富み、大いに評価されるものである。</p> <p>論文の構成は以下の通りである。第1章でテキストマイニングの手法を示し、研究目的とその意義について明示した上で、第2章ではテキストマイニングとは何かについて定義を行った。本論の第1部となる第3章・4章・5章以下では、首相の就任時所信表明演説や国会議事録の文章データ、歯科医院の患者に対するアンケートなど多様なテキストデータを、テキストマイニングを用いて分析している。分析にあたり、いわゆるコーパスのみならず、自由回答方式のテキストデータを取り上げている点は重要で、本論文で示した研究手法の適用可能性の広さを示している。本論第2部は、対人コミュニケーションにおける配慮表現の研究にテキストマイニングを応用したものであり、豊富な調査データを用いて分析を進めている。第1部での研究をさらに具体的な事例をもとに展開し、配慮表現の分析においてオリジナルな手法を確立したものと言っても過言ではない。「誘いに対する断り」（第8章）、「依頼に対する断り」（第9章）、「日韓中における依頼に対する断り」（第10章）で用いられた分析手法は、今後、日本語学における同種の対人配慮に関わる研究の手法として定着するものと考えられる。論文全体の構成や論旨展開は明快であり、研究テーマ、分析方法、結論等には注目すべき独創性が認められ、研究成果は今後の日本語研究の発展に貢献する学術的価値を有すると判断される。論文の内容・形式から、高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の倫理観、技術力、研究能力を有していることもあわせて示された。なお、文理融合の総合的な視点から地域科学的な研究を行っているという点においても、清水氏の論文は、本学大学院地域科学専攻の学位論文にふさわしいものと言える。</p> <p>以上、本研究は本教育部の博士論文としての一定の水準に達するものであり、博士（学術）の学位に相当するものであると考える。</p>			